

# 交通シミュレーション委員会 第四部会 第一回部会議事録

平成 13 年 12 月 18 日

尚友会館 7F 会議室

## 1. 出席者名簿

中野 敦 (財)計量計画研究所 第四部会長

久保田 尚 埼玉大学 工学部助教授 オブザーバー

以下 名簿順

泉 典宏 (株)オリエンタルコンサルタンツ東京事業本部

毛利 (株)オリエンタルコンサルタンツ東京事業本部 オブザーバー

滝澤 昇 (株)システム 21

澤 充隆 (株)ドーコン

松橋 良和 (株)ドーコン

永田 尚人 (株)熊谷組 花房比佐友氏が代理出席

坂本 清明 (株)社会システム研究所

和久井 博 (株)社会システム研究所

戸松 稔 (株)地域・交通計画研究所

笹沼 慶与 (株)長大

児島 正之 (株)千代田コンサルタント

末松 孝司 (株)東急総合研究所 鈴木氏が代理出席

佐藤 光 パシフィックコンサルタンツ(株)

竹内 秀城 警視庁

坂本 邦宏 埼玉大学 工学部助手

吉田 正 鹿島建設(株) 酒匂委員が代理出席

末田 俊久 八千代エンジニアリング(株)

山岸 国夫 富士通エフ・アイ・ピー(株)

敬称略

## 2. 配布資料

- ・資料 - 1 : 第 4 部会の目標とする成果と今後の活動について
- ・資料 - 2 : 堀口氏メモ
- ・資料 - 3 : 久保田メモ

## 3. 議事

- (1) 第四部会設置の趣旨と目標とする成果

- ( 2 ) 今後の活動予定について
- ( 3 ) 議事録等事務的な事項の決定

## 1) 部会長挨拶

本部会では、クリアリングハウスでのユーザーインターフェースの企画・運用の構築が主要な成果の1つであり、ユーザーにとって使いやすいシステムを目指す。

他の部会と異なり、今のところ明確なアウトプットが見えていない。したがって、何を検討し何を成果とするかについて、まず、議論を深めていく必要がある。

重要なのは、交通シミュレーションを実務に使っていくときの課題と対応であり、どのように交通計画に使っていくかということである。

オブザーバーに久保田先生、堀口氏を迎え進めていく。

## 2) 第四部会設置の趣旨と目標とする成果

中野 : 配布資料に基づく趣旨説明。要旨は以下のとおり。

- ・ 本部会で取り扱うシミュレーションモデルの定義と範囲について議論が必要。
- ・ 期待される成果の確認と、実際に向かうべき方向について議論が必要。
- ・ 交通シミュレーションの普及に向けた具体的な議論が必要。

久保田 : 先日行われた交通技術セミナーにおけるパネルディスカッション(京大 - 宇野先生、国土交通省 - 河南氏、警察庁 - 吉崎氏、運輸政策研究所 - 西宮氏(MRI)、ITL - 堀口)で、交通シミュレーションの普及に関する様々な発言があった。

オンライン予測を近未来に実施する場合の交通シミュレーションの役割と課題や、シミュレーションモデルそのものにまだまだ問題があるなど。

このような問題に対する答えを用意しなくてはならない。

本委員会は、第一～第三部会で対象としている内容について、国土センターが設置した研究会を中心に検討してきた流れと、警察庁の交通アセスメントに関する委員会(H11～H12)の流れを汲んでいる。

これらが対象としてきたのは、検証したモデルは車両を一台ずつ表現するタイプだけではなくブロック単位の制御モデルもある、単一交差点ではなくネットワークシミュレーションを扱ってきた、人ではなく車を対象としてきた(ただし、人による車への影響はあり)、機関分担は扱っていない、地区レベルくらいを対象としていた、などである。

このようなシミュレーションモデルの定義と範囲の問題は、第四部会がリードすべきと考える。

坂本 : シミュレーションモデルのタイプや対象範囲や小さくすべきではない。部会としては最大範囲とすべきでは。

和久井 : 大きすぎるのも問題である。久保田先生の話した内容を対象としてもいい。範囲を現段階で狭く定めないことには賛成である。

佐藤 : 今ここで範囲を限定するのは議論を小さくする可能性がある。幅広くシミュレーショ

ンを使ってもらうためには、何をすればよいかを議論すべきである。

竹内 : 警察が本委員会に期待するのは、やはり普及が前提である。行政にも様々な立場の人間がいる。シミュレーションは何でもできると思っている人間もいる。制限はあるが、ツールとして有効であるということをPRすべき。

配分まで、シミュレーションの範疇で捉えている人もいるので、一般市民まで含めて有効性をアピールすべきであり、広い範囲を対象としてはどうか。

中野 : ここでいう一般は、行政を含むと考えるが、一般市民までを対象とすべきか。

坂本 : ユーザーインターフェイスの企画・運用がメインであるならば、クリアリングハウス上で検索すると、PR用のコンテンツにたどり着くといったインターフェイスを構築するといいいのではないか。

ただし、データエクステンションという観点では、ちょっとやりすぎかも知れない。優先度はやや落ちるかもしれない。

児島 : コンサルタントの立場では、交通シミュレーションを用いた説明には、道路管理者、警察、一般市民という3段階があり、それぞれで説明の主旨が異なっている。

佐藤 : このような委員会で議論されたというお墨付きがあるかどうかで説得力が変わる。

竹内 : 最終的には認証制度みたいなものができればいい。

泉 : こういう使い方、こういうプロセスを踏んでいるというルールがあるといいいのではないか。このモデルの限界はここまでだという限界をはっきりさせる、という仕組みも必要である。

中野 : 認証制度がやはり必要ということか。

泉 : クリアリングハウスで検証結果の公開をすることがきっかけとなる。

佐藤 : 分割配分に認証制度はない。交通シミュレーションもそうならばよい。

また、交通シミュレーションは、データ調達を含めて、多くの費用がかかる。国土交通省や警察が所有するデータを活用できるような方向へ誘導すべきでは。

中野 : 行政上の課題については、委員会のメンバーでもあるので、認証制度を作らないまでもやりようはある。技術的な課題をクリアする方向で議論を進めるべき。ただし、必要なデータベースの整備について提言するのは重要な要請であると認識している。

鈴木 : シミュレーションの精度の向上を目指すべき。行政のニーズについてヒアリングしてみてもどうか。どういう問題が起きているかといったニーズを把握できれば、データは調達できるのではないか。

中野 : 交通計画の体系整理から入り込んでいけばいい。問題のヒアリングについては、日常的に業務に携わっている委員会のメンバーで確認がとれるはずである。部会間の調整については、各部会長と議論する。

これまでの議論を整理すると、

- ・モデルの定義・範囲については現時点で決定する必要はない。動的なシミュレーションで、実用化の可能性のあるものを議論しながら絞っていくこととしたい。

- ・次回堀口氏に第四部会への出席していただき、クリアリングハウスに関する論点などを話してもらう。

・期待される成果については、一応、資料 - 1 の ~ を念頭において検討する。議論によって変更することは当然あり得る。

#### 4) 今後の活動予定と事務的な事項の決定について

中野 : 次回は、手法研究とモデルの現状と課題、手法適用の現状と課題について、第四部会メンバーの中から話題提供して欲しい。

澤 : 交通シミュレーション全体を包括した内容ではないが、昨年度における国土センターの成果で、AVENUE と NETSIM ( 日本 ) の Validation を通じたシミュレーションモデルの課題について報告している。このような内容であれば話題提供できる。

中野 : 一つは Docon にお願いし、もう一つは交通シミュレーションの包括的な話題として適用事例の現状と課題といったことについても議論したい。また、堀口氏にクリアリングハウスの課題や論点についてもプレゼンしてもらうこととする。

事務的な事項については、今回の議事録と次回の手配を Docon にお願いする。議事録は、掲示板に公開するものとし、回りの案内はメールリストを活用する。次回以降については、同じ段取りで持ち回りとする。交通工学研究会には会場の手配をしてもらうことになっている。

#### 5) 次回予定

日時：平成 14 年 1 月 24 日 ~ 28 日の午後

( メールリストで案内し、参加者の動向によって決定する )

議題： クリアリングハウスの課題と論点：ITL 堀口

適用事例による交通シミュレーションの課題：中野

Validation を通じた交通シミュレーションの課題：Docon 澤

その他